

学生たちを森へ 流域へ



● 学生たちを森へ

豊森なりわい塾（2014年 山村再生担い手づくり事例集 I 参照）運営で知られる地域の未来・志援センター事務局の三ツ松由有子氏は、今回取材に参加するのと同時に、学生たちを森に連れて行こうというプロジェクトを模索していた。コロナ禍の中で幾度か頓挫しながらも、22世紀奈佐の浜プロジェクト・学生部会や根羽村森林組合の今村豊氏を始めとする今回の取材チームの協力により、また今回の取材（2021年12月26日／美浜町）で出会った桑山工務店・桑山久氏と名城大学・木造建築研究会の学生さんたちも加わり、ついに2022年3月9日～10日にかけて根羽村での森林・林業体験インターンを実施したのであり、以下に報告させていただきます。

なお三ツ松さんは、2019年にも学生を額田・奏林舎の唐澤晋平氏のもとへと林業体験に送りこんでおり、その一人、四日市大学の学生だった平野智也君は、この春2022年4月より三重県松阪市の森林組合に就職することとなった。林業や森林に興味を持つ若者たちは確実に増えてきている。以下の企画は今回パイロット的に実施したものであるが、とても有意義な経験となり今後も継続していきたいと思う。

「根羽村森林組合インターン」企画（岐阜大学 米田紗歩／22世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会）

目的：農山村や里山を生かしたこれからの林業のあり方や、林業だけにとらわれず、人々の憩いの場や健康、子どもたちの感性を育むような新しい森林空間のあり方について、根羽村のトータル林業や森林空間活用、プレイスメイキング等の事例を通して学ぶ。また、山村や里山におけるこうした意図的に林業を選択して一次産業の担い手となっているIターン移住者等のライフスタイルや、自己実現のあり方についてブレインストーミングを通して検討する

（以下氏名は敬省略）

主催：地域の未来・志援センター、22世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会

矢作川流域圏懇談会「ミライ会議」

協力：根羽村森林組合（今村豊、小野隆治、山本英介、山本徹、木村勇太）、

矢作川流域圏懇談会ミライ会議（高橋伸夫）、中部流域連携ネットワーク（近藤朗）

参加者：大学生5名（岐阜大学）米田紗歩、（相山女学園大学）飯坂温子、

（名城大学）木造建築研究会 服部あやな（+妹さん 服部友菜）、安江志乃

桑山工務店 桑山久（木造建築研究会協力企業）

日程：2022年3月9日（水）～10日（木）

場所：長野県根羽村森林組合及び施業現場、ホテル岡田屋（宿泊・意見交換会）、小川川沿の森とサウナ

行程：3月9日／① 根羽村トータル林業の話 ② 伐採・植栽等施業現場見学 ③ 今村さんと意見交換会

3月10日／④ 製材工場視察 ⑤ 間伐（伐採）体験、ブランコづくり

⑥ Iターン林業従事者たち（小野、山本、木村）との意見交換会



米田紗歩さん



根羽村での林業体験など



妄想を実現させる共感力

2日間にわたる林業体験インターンの締めくくりは、根羽村森林組合の御三方、全員がIターンにより根羽村にやって来られた方々であるが、小野さん・山本さん・木村さんと学生たちとの交流・意見交換会を行った。根羽村に来た動機やここでやってみたいこと、山での生き方など、これから生き方を模索して行くことになろう学生たちは、様々な示唆をいただいたと思う。

小野さんの発言の中でとても印象に残った言葉がある。「今村さんは妄想家。その妄想を実現、具体化してきたのは俺たちだ!」この言葉に他の二人も頷いていた。そうか、妄想家というのは今村さんにピッタリな表現なんだけれど、妄想って何なんだろうと改めて考えてしまった。これは常識や既成概念にとらわれないわくわくする夢なんだよね。熱い想いがあるからこそ共感者が現れ実現へと動き出すというのが、正に矢作川流域圏スタイルなのだ痛感した。

● 学生たちを流域へ

根羽村での森林・林業体験を実施した地域の未来・志援センター、22世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会、中部流域連携ネットワーク(愛知・川の会)は、これに続き5月6日～8日にかけて天竜川流域を下流(浜松市)から源流・諏訪湖(長野県岡谷市)まで辿る体感エクスカージョンを実施した。参加メンバーは学生・若手たち含め総勢11名、さらに中央構造線博物館学芸員、諏訪湖浄化対策連絡協議会の方々などを巻き込みながら3日間のツアーを展開した。

このエクスカージョンは、今年度実施する予定の中部版「いい川」ワークショップ(2022年11月～12月頃予定)の準備及び下見を兼ねたものであり、矢作川流域圏懇談会を始めとする様々な枠組みの参加を促進させるとともに、多世代にわたる共有の場を創ろうとするものである。学生たちは、この後も矢作川流域圏懇談会バスツアーや、伊勢湾・奈佐の浜プロジェクト答志島合宿などへ向かう。

天竜川河口・遠州灘の中田島砂丘
と巨大な防潮堤防(2021年4月撮影)



天竜川下流から源流までまるごとエクスカージョン

主催;地域の未来・志援センター、22世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会、中部流域連携ネットワーク
協力;長野県大鹿村中央構造線博物館(学芸員)河本和朗氏、

長野県下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会 小口智徳氏、小泉勝弘氏、熊谷昌憲氏
参加者;大学生・OB5名(岐阜大学)米田紗歩、川野純也、OB今井和樹、

(相山女学園大学)飯坂温子、(三重在住)前田純伶(すみれ)

地域の未来・志援センター 三ツ松由有子、河合良太

中部流域連携ネットワーク、愛知・川の会 近藤朗、(フジヤマ)清水雅子、(建技)竹内えり子

地質・中央構造線案内人(フジヤマ)遠藤技師(5/6のみ参加)

日程;2022年5月6日(金)～8日(日)

場所;愛知県、静岡県、長野県の天竜川流域、やまいろゲストハウス、岡谷セントラルH(宿泊・意見交換会)

行程;5月6日/①愛知県大湫川の煮瀨ポットホール、愛知～静岡に至る中央構造線露頭箇所

②佐久間ダム(静岡県浜松市)③天竜峡にかかる歩道橋「そらさんぽ」(長野県飯田市)

④飯田城址(飯田市)より天竜川を俯瞰

5月7日/⑤天竜峡・天竜川ライン下り(飯田市)⑥小渋ダム、排砂バイパストンネル(中川村)

⑦大鹿村中央構造線博物館(河本氏ガイド)⑧諏訪湖釜口水門(岡谷市)天竜川最上流端

5月8日/⑨諏訪湖湖畔、及び「御柱祭」(2022年は7年に一回の開催年)関連箇所の視察(下諏訪町)

諏訪湖浄化推進連絡協議会 小口智徳氏他の案内による



大千瀬川・煮淵ポットホール



佐久間ダム

そらさんぼ(左下写真)からの天竜峡の眺め





鹿塩マイロナイトを説明する遠藤さん



飯田市内 やまいろゲストハウスに集合



天竜峡にて 天竜川ライン下り体験
河原には細かい砂が見られる



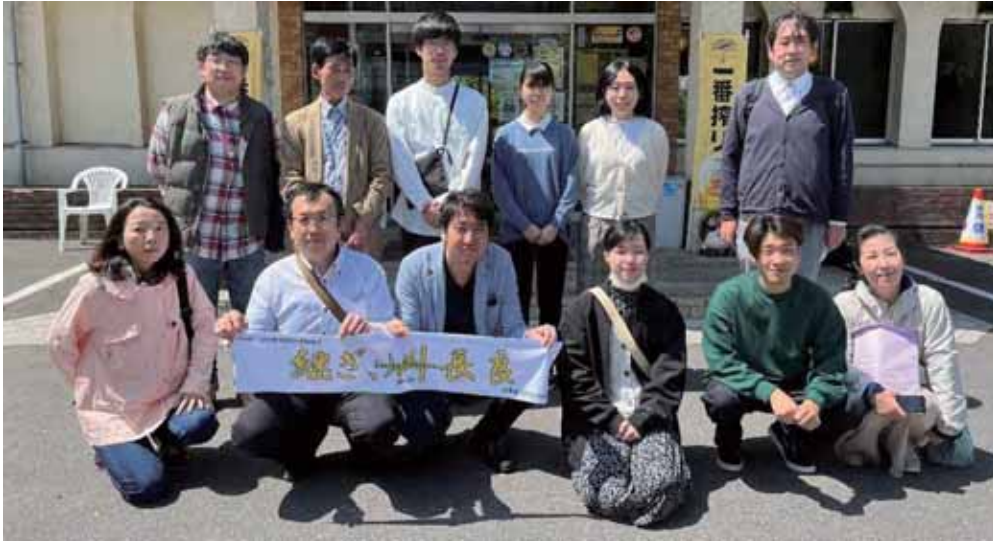
小渋ダムと排砂バイパストンネル



大鹿村中央構造線博物館にて 河本さんから丁寧な説明を受ける



下諏訪町 木落し坂にて 小口さんから御柱祭の丁寧な説明を受ける



下諏訪町 諏訪湖畔にて
湖浄連のみなさまと共に



下諏訪町 砥川 木落坂より下流の
諏訪大社 下社 春宮あたり



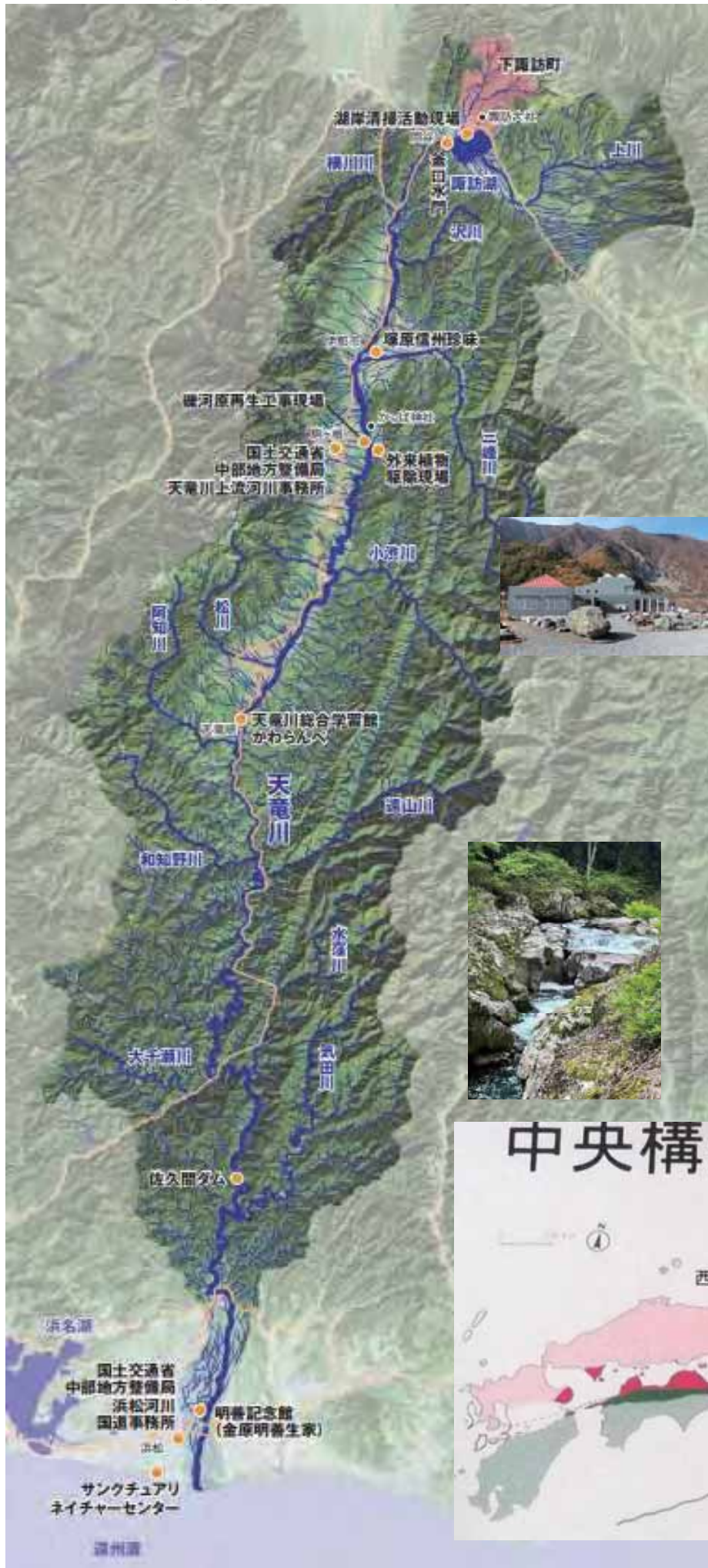
下諏訪町 立石公園より諏訪湖を望む



2022年 中部川のワークショップに向けて
諏訪湖畔にてみんなで気合を入れる



天竜川流域図



中央構造線

